

【ご報告とお詫び】 個人情報の誤送信に対する報告について

当院は、2022年1月15日に入院患者さまに配布しているタブレット端末に、誤って他患者さまの氏名、血圧、体温、酸素飽和度、症状などの医療情報を含む個人情報を送信したことを報告いたします。

あらためまして、患者さまをはじめ関係者の皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

このたびの嚴重注意の内容を重大かつ厳粛に受け止め、このような事態を起さぬよう、再発防止の徹底と安全管理体制の強化を図り、信頼回復に努めてまいります。

2022年1月17日

ロコメディカルグループ 医療法人ロコメディカル 江口病院

(参考)

(報告内容骨子)

1 事実の概要

令和4年1月15日16時20分、病棟において担当看護師が通信ソフトウェア「Skype」(以下「Skype」)を用いて担当医のタブレット端末に定期報告を送信する際に、誤ってひとりの入院患者さま(以下、「A患者さま」)の連絡用タブレット端末に送信した。当該看護師はすぐに誤送信に気づき削除を依頼した。患者さまはいつもと画面が違うことに気づき、画面を見ないようにしたため他患者さまの情報は見ていないとご報告を頂戴した。

2 発生経緯

当時は患者さま8名に対し看護師1名で勤務していた。感染予防のために患者さまからの情報はタブレット端末にインストールされているSkypeを用いて相互に連絡を取っていた。当時の入院患者さまの血圧、脈拍、体温、酸素飽和度、症状および報告事項を一覧にまとめた表をタブレット端末のカメラで撮影し、医師へ送信しようとSkypeを操作した。午後の定期報告をさせていただいたA患者さまの通信画面が開かれていたままの状態であり、送信先の変更の確認と正しい送信先の確認を怠り、A患者さまの端末へ誤送信した。看護師はすぐに誤送信に気づき、A患者さまのタブレット端末での削除を依頼した。

3 要因

- (1) 患者連絡と医師への報告に同一のソフトウェアを使用していた。
- (2) 定期報告時間(7時、10時、16時、19時)が近づいていたことで当該看護師に精神的な焦りがあった。
- (3) タブレット端末での作業はタッチ式であり、送信前の送信先の確認画面がなく、ワンタッチにて操作が完了するために、誤りに気づいてもタッチ後には瞬時に送信されてしまう。
- (4) 時間で報告したいという精神的焦りもあり、日頃、徹底するよう努めている「指差し確認」に続く「声出し確認(スピークアウト)」を怠った。

4 再発防止策

- (1) 操作時には一つ一つの業務に対し「指差し確認に続き、指で差しながら声に出して行う（スピークアウト）」を徹底する。
- (2) 複数名で相互確認（ダブルチェック）、また誤解を防止するための「確認会話」を行うことを原則とし、やむなく単独での行為の場合は、別途、紙面にこれから行う行為を記載し、指差し音読し、正しいことを確認し、操作を行う（緊急時はこの限りにあらず）。
- (3) 報告用ソフトウェアと患者さま用ソフトウェアを別にする。
- (4) 報告方法や時間の見直しを行う。